

令和5(2023)年度 病害虫発生予報 第10号

令和6(2024)年1月19日
栃木県農業環境指導センター

天候を考慮した適切なハウス管理で、病害虫の発生を抑えましょう。

予想期間 1月下旬～2月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は少ない(ほ場率：平年比26%)。(一)
- ・ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多い、日照時間はほぼ平年並の見込み。(＋～±)
- (3) 対 策 ・ 多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
- ・ 軟弱徒長すると発生しやすくなるので、温度管理やかん水を適切に行う。
- ・ 発生初期のうちに、アフェットフロアブル(RAC コード F:7)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- ・ 曇雨天時にはくん煙剤を使用するが、硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるので天敵導入ほ場では長時間のくん煙処理は避ける。

2 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い(ほ場率：平年比239%、株率：平年比267%)。(＋)
- ・ 向こう1か月の平均気温は高く、日照時間はほぼ平年並の見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ 低密度のうちにカウンター乳剤(I:15)等を散布する。観察した花の1割以上にアザミウマ類の寄生が見られる場合は、速やかにスピノエース顆粒水和剤(I:5、カブリダニ等の天敵に影響があるので注意する)等を散布する。
- ・ 青色粘着トラップを設置すると、発生及び侵入状況を早期に知ることができる。
- ・ 同じ薬剤であってもミカンキイロアザミウマとヒラズハナアザミウマでは防除効果が異なる。また、薬剤感受性の低下を避けるため、必ずRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(ほ場率：平年比56%、株率：平年比30%)。(±～一)
- ・ 向こう1か月の平均気温は高く、日照時間はほぼ平年並の見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
- ・ 天敵導入ほ場ではハダニ類の生息状況等をよく観察し、必要に応じて追加放飼を検討する。
- ・ 化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ・ 葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 いちご アブラムシ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(ほ場率：平年比160%、株率：平年比190%)。(＋～±)
- ・ 向こう1か月の平均気温は高く、日照時間はほぼ平年並の見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
- ・ 発生初期のうちに、ウララ DF(I:29)等を葉裏にもよくかかるように散布する。

5 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は少ない(ほ場率：平年比0%、株率：平年比0%)。(一)
- ・ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多い、日照時間はほぼ平年並の見込み。(＋～±)

- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
- ・ 発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。
- ・ 発生初期に、セイビアーフロアブル 20 (F:12) 等を葉裏によくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ [灰色かび病薬剤感受性検定結果①、②](#)を当センターHP に掲載中。

6 トマト 黄化葉巻病 (TYLCV) (タバココナジラミが媒介)

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量が多い (ほ場率：平年比 197%、株率：平年比 300%)。(+)
- ・ 向こう 1 か月の平均気温は高く、日照時間はほぼ平年並の見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 黄色粘着板の設置によりコナジラミ類が見られた時はトランスフォームフロアブル (I:4C) 等を散布する。
- ・ 発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
- ・ 耐病性品種であっても、本病に感染すると伝染源となるため、タバココナジラミの適正な防除を行う。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo22、タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。
- ・ タバココナジラミは黄化葉巻病 (TYLCV) だけでなく黄化病 (ToCV) も媒介するため、適正な防除を行う。

7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
いちご	灰色かび病	少	やや少	トマト	すすかび病	平年並	平年並
きゅうり	べと病	多	多	きく	コナジラミ類	やや少	平年並
	褐斑病	平年並	平年並		白さび病	多	多
	コナジラミ類	平年並	やや多		ハダニ類	やや少	平年並
にら	白斑葉枯病	平年並	平年並		アブラムシ類	多	多

○冬期のスクミリンゴガイ (ジャンボタニシ) 対策について

足利市・小山市・野木町の排水路等でスクミリンゴガイの生息が確認されています。スクミリンゴガイが見られている地域では、水稻作へ向けて越冬密度を下げる以下の対策を行いましょう。

- ・ 耕うんを行い物理的に破壊するとともに寒風にさらす
- ・ 水路の泥上げにより、越冬場所をなくし越冬個体を減らす

[スクミリンゴガイに注意しましょう](#)を当センターHP に掲載中です。

○いちごの古葉等の除去を行いましょう。

古葉、不要な果実はどうんこ病や灰色かび病などの発生原因となります。これらを放置せず取り除き、ほ場外で適切に処分しまししょう。また、古葉の除去はハダニ類の密度低下にも有効です。

○果樹の整枝・せん定作業時には、罹病枝除去に留意しまししょう。

- ・ 整枝・せん定作業時には、罹病枝を取り除くか被害部を削り取り、傷跡に薬剤を塗布しまししょう。

農薬は適正に使用しまししょう

- 農薬は、容器のラベルをよく読んで適正に使用し、農薬の飛散 (ドリフト) にも注意しまししょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しまししょう。
- 薬剤防除では、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しまししょう。

1 か月気象予報 (予報期間 1 月 20 日から 2 月 19 日 1 月 18 日気象庁発表)

寒気の影響を受けにくいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう 1 か月の降水量は平年並が多いでしょう。

向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)

項 目	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気 温	1 0	2 0	7 0
降 水 量	2 0	4 0	4 0
日照時間	4 0	3 0	3 0

詳しくは農業環境指導センター (Tel 028-626-3086) までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g64/index.html>) でもご覧になれます。



NOUGYO_KSC_TOCHIGI

Instagram 農作物病害虫図鑑@とちぎ

センター所蔵の病害虫画像をインスタグラム上で公開しています。

主要病害虫から珍しい種まで、定期的に更新中！

#栃木県#病害虫図鑑 検索&フォローよろしくお願いします！

令和 5 (2023)年度 病虫害発生予報 第 11 号

令和 6 (2024)年 2月 16 日
栃木県農業環境指導センター

施設内の温度や湿度を適正に保ち、病虫害の発生を抑えましょう。

予想期間 2月下旬～3月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並（ほ場率：平年比 78%、株率：平年比 67%）。(±)
・ 向こう 1 か月の気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ない見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
・ 発病した葉や果実や果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
・ 予防を主体に、フルピカフロアブル(RAC コード F:9)等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [灰色かび病薬剤感受性検定結果①、②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない（ほ場率：平年比 47%、株率：平年比 100%）。(-)
・ 向こう 1 か月の気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ない見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
・ ベルコートフロアブル (F: M7) 等を予防的にローテーション散布する。
・ 発生初期のうちに、パンチョ TF 顆粒水和剤(F:U6、F:3)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
・ 曇雨天時にはくん煙剤を使用するが、硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるため、天敵導入ほ場では長時間のくん煙処理は避ける。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない（ほ場率：平年比 46%、株率：平年比 27%）。(-)
・ 向こう 1 か月の気温は高く、日照時間は少ない見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 天敵導入ほ場では、ハダニ類の生息状況をよく観察し、必要に応じて追加放飼を検討する。
・ 化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
・ 葉かき後は薬剤がかかりやすいため、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

4 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並（ほ場率：平年比 79%、株率：平年比 100%）。(±)
・ 向こう 1 か月の気温は高く、日照時間は少ない見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 低密度のうちにマッチ乳剤(I:15)等の IGR 剤を散布する。
・ 観察した花の 1 割以上にアザミウマ類の寄生が見られる場合は、速やかにスピノエース顆粒水和剤(I:5、カブリダニ等の天敵に影響があるので注意する)等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①、②](#)を当センターHP に掲載中。

5 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は少ない（ほ場率：平年比 0%、株率：平年比 0%）。(-)
・ 向こう 1 か月の気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ない見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
・ 発病葉、発病果、花卉は伝染源となるため、速やかに取り除き、施設外で処分する。
・ 発生状況に応じてピクシオ DF (F:17)等を葉裏にもよくかかるように散布する。

(4) 備考・ [灰色かび病薬剤感受性検定結果①、②](#)を当センターHPに掲載中。

6 トマト すずかび病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い（ほ場率：平年比 679%）。（+）
・ 向こう 1 か月の気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ない見込み。（+）
- (3) 対策 ・ 施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
・ 発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。
・ 予防を主体にダコニール 1000 (F:M5) 等を葉裏によくかかるように散布する。発生が認められる場合は、ネクスターフロアブル(F:7)等を使用する。

(4) 備考・ [すずかび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

7 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生は平年並（ほ場率：平年比 117%、株率：平年比 31%）。（±）
・ 向こう 1 か月の気温は高く、日照時間は少ない見込み。（±）
- (3) 対策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

8 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	アブラムシ類	平年並	平年並	トマト	黄化葉巻病	平年並	平年並
きゅうり	うどんこ病	やや多	多		葉かび病	平年並	やや多
	べと病	やや多	多	にら	白斑葉枯病	少	やや少
	コナジラミ類	多	多	きく	アザミウマ類	多	多

〇りんご属及びなし属植物の中国産花粉の使用自粛のお願いについて

りんごやなしの火傷病（かしょうびょう）は、日本未発生の重要病害です。今般、これまで発生国とされていなかった中国で本病の発生が確認され、りんご・なしの授粉用に中国産花粉を輸入して使用していた日本においても、その侵入が懸念されています。中国産花粉には本菌が付着しているおそれがあることから、生産年にかかわらず、県が回収・買上げし、廃棄しますので、所有している場合には、必ず、農業振興事務所に御連絡願います。

〇かんしょ サツマイモ基腐病

本病は栃木県での発生は確認されていませんが、令和 6 (2024) 年 2 月現在、全国 34 都道府県で発生が確認されています。発病すると、地上部の変色及び枯死、イモの腐敗等の症状が現れます。

健全な種苗の導入及び発病株の早期発見により被害の拡大を未然に防止することが重要です。

[サツマイモ基腐病に注意！](#)を当センターHPに掲載中です。

〇水稲の種子伝染性病害の対策について

種子消毒を適切に行い、使用する床土や育苗箱、育苗器などの育苗資材・器具もしっかり消毒することで、苗立枯病や種子伝染性病害の発生を防止しましょう。また、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病などの細菌病は、高温・多湿条件で発生しやすいため、育苗ハウス内の温湿度管理にも留意しましょう。

〇冬期のスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策について

足利市・小山市・野木町の排水路等でスクミリンゴガイの生息が確認されています。スクミリンゴガイが見られている地域では、水稲作へ向けて越冬密度を下げる以下の対策を行いましょう。

- ・ 耕うんを行い物理的に破壊するとともに寒風にさらす
- ・ 水路の泥上げにより、越冬場所をなくし越冬個体を減らす

[スクミリンゴガイに注意しましょう](#)を当センターHPに掲載中です。

農業は適正に使用しましょう

- 〇農薬は、容器のラベルをよく読んで適正に使用し、農薬の飛散（ドリフト）にも注意しましょう。
- 〇花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。
- 〇薬剤防除では、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

1 か月気象予報（予報期間2月17日から3月16日 2月15日気象庁発表）

寒気の影響を受けにくく、暖かい空気が流れ込みやすい時期があるため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。

低気圧や前線などの影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項 目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	1 0	3 0	6 0
降 水 量	2 0	3 0	5 0
日照時間	5 0	3 0	2 0

詳しくは農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せください。

病虫害情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g64/index.html>) でもご覧になれます。



Instagram 農作物病虫害図鑑@とちぎ

センター所蔵の病虫害画像をInstagram上で公開しています。

主要病虫害から珍しい種まで、定期的に更新中！

#栃木県#病虫害図鑑 検索&フォローよろしくお願いします！

農業環境指導センター移転のお知らせ

農業環境指導センターは組織改編の一環で農業試験場と統合し、令和6年4月1日から「農業総合研究センター」となります。

新住所：農業総合研究センター 宇都宮市瓦谷町1080（現農業試験場）

電話番号：環境技術指導部 検査指導課 028-665-1243

防除課 028-665-1244

令和 5 (2023) 年度 病害虫発生予報 第 12 号

令和 6 (2024) 年 3 月 15 日
栃木県農業環境指導センター

気温の上昇に伴う病害虫の発生増加に備えましょう。

予想期間 3 月下旬～4 月下旬 予報の根拠で、(+) は増加要因、(-) は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない（ほ場率：平年比 33%、株率：平年比 50%）。(－～±)
・ 向こう 1 か月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並かやや多い見込み。(±～＋)
- (3) 対 策 ・ 多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
・ 発病した葉、果実、果梗等は伝染源となるため、速やかに取り除き施設外で処分する。
・ 発生状況に応じてショウチノスケフロアブル(RAC コード F:U13, F:9)等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [灰色かび病薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご アブラムシ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い（ほ場率：平年比 100%、株率：平年比 333%）。(±～＋)
・ 向こう 1 か月の気温はほぼ平年並で、日照時間は平年並かやや少ない見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 発生初期のうちに、ウララ DF(I:29)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
・ 施設内外の雑草は増殖源となるので除草する。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない（ほ場率：平年比 28%、株率：平年比 30%）。(－～±)
・ 向こう 1 か月の気温はほぼ平年並で、日照時間は平年並かやや少ない見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 天敵導入ほ場では、ハダニ類の生息状況をよく観察し、必要に応じて追加放飼を検討する。
・ 化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

4 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並（ほ場率：平年比 60%、花率：平年比 78%）。(－～±)
・ 向こう 1 か月の気温はほぼ平年並で、日照時間は平年並かやや少ない見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 低密度のうちにカウンター乳剤(I:15)等の IGR 剤を散布する。
・ 観察した花の 1 割以上にアザミウマ類の寄生が見られる場合は、速やかにディアナ SC (I:5、カブリダニ等の天敵に影響が大きいので注意する)等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHP に掲載中。

5 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並（ほ場率：平年比 70%、株率：平年比 65%）。(±)
・ 向こう 1 か月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並かやや多い見込み。(±～＋)
- (3) 対 策 ・ 多湿条件において発生しやすいので、施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
・ 発病した葉、果実、花卉等は伝染源となるため、速やかに取り除き施設外で処分する。
・ 発生状況に応じてセイビアーフロアブル 20(F:12)等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [灰色かび病薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHP に掲載中。

6 トマト 黄化葉巻病 (TYLCV、タバココナジラミが媒介)

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 掘 ・ 現在の発生量は多い（ほ場率：平年比 194%、株率：平年比 200%）。(+)
・ 向こう 1 か月の気温はほぼ平年並で、日照時間は平年並かやや少ない見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の誘殺が見られた際にアニキ乳剤(1:6)等を散布する。
・ 発病株は耐病性品種であっても伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。
・ タバココナジラミは黄化葉巻病(TYLCV)だけでなく黄化病(ToCV)も媒介するため、適正な防除を行う。

7 たまねぎ ベと病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 掘 ・ 現在の発生量は平年並（ほ場率：平年比 40%、株率：平年比 600%）(±)
・ 向こう 1 か月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並かやや多い見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・ 雨水が停滞すると発生しやすくなるので、ほ場の排水をよくする。
・ 発病株は速やかに抜き取り、ポリ袋等に入れほ場外に持ち出し、適切に処分する。
・ 予防を主体にジマンダイセン水和剤(F:M3)等を散布する。発生が見られる場合は、オロンディスウルトラ SC(F:49, F:40)等を散布する。曇雨天が続くと予想される場合には、降雨前に薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・ 気温 15℃前後で雨が多いと発生が多くなりやすい。
・ [植物防疫速報 No. 11](#) を当センターHP に掲載中。

8 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
きゅうり	うどんこ病	平年並	やや多	トマト	葉かび病	やや少	平年並
	べと病	やや多	多	きく	アザミウマ類	平年並	平年並
	コナジラミ類	やや多	やや多		ハダニ類	平年並	平年並

○水稻の種子伝染性病害の対策について

種子消毒を適切に行い、使用する床土や育苗箱、育苗器などの育苗資材・器具もしっかり消毒することで、苗立枯病や種子伝染性病害の発生を防止しましょう。

近年、特に育苗期間中の高温が原因と思われる病害（もみ枯細菌病、苗立枯細菌病など）の発生が多くなっていますので、育苗ハウスなどの適正な温湿度管理にも留意しましょう。

○麦類赤かび病

赤かび病は予防が重要です。出穂や開花の状況をよく観察して、適期に赤かび病防除を行いましょう。

○ナシ黒星病の春期防除を徹底しましょう

本年の幸水の開花始めは平年より 4 日早く、昨年より 5 日遅い予想となっています。黒星病の第一次伝染時期であるりん片脱落期から開花後は最重要防除期です。果そう基部病斑（芽基部病斑）の摘み取りを徹底し、2 分咲きから落花直後に予防効果の高い DMI 剤を散布しましょう。[ナシ黒星病菌の簡易薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

農業は適正に使用しましょう

- 農薬は、容器のラベルをよく読んで適正に使用し、農薬の飛散（ドリフト）にも注意しましょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。
- 薬剤防除では、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

1 か月気象予報（予報期間 3 月 16 日から 4 月 15 日 3 月 14 日気象庁発表）

向こう 1 か月の気温はほぼ平年並でしょう。低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう 1 か月の降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項 目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	3 0	3 0	4 0
降 水 量	2 0	4 0	4 0
日照時間	4 0	4 0	2 0

詳しくは農業環境指導センター（Tel 028-626-3086、028-665-1244）までお問合せください。
病虫害情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業環境
指導センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g64/index.html>）でもご覧にな
れます。



農業環境指導センター移転のお知らせ

農業環境指導センターは組織改編の一環で農業試験場と統合し、令和6年4月1日から
「農業総合研究センター」となります。

新住所：農業総合研究センター 宇都宮市瓦谷町1080（現農業試験場）

電話番号：環境技術指導部 検査指導課 028-665-1243

防除課 028-665-1244

令和6(2024)年度 病害虫発生予報 第1号

令和6(2024)年4月19日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

気温の上昇に伴う病害虫の発生増加に注意しましょう！

予想期間 4月下旬～5月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 麦類 赤かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並の見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 出穂や開花の状況をよく観察し、麦種ごとの防除適期を逃さないよう、防除を徹底する。
・ 不稔粒が発生したほ場は、赤かび病多発のおそれがあるため、追加防除を実施する。
・ RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュース No. 1 \(麦類の赤かび病\)](#)、[防除のポイントNo.18](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご アブラムシ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い(ほ場率：平年比196%、株率：平年比324%)。(+)
・ 向こう1か月の気温は高く、日照時間は平年並か少ない見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、虫体の他、マルチ上に脱皮殻などが確認されたら防除を行う。
・ 発生初期のうちに、モスピラン顆粒水溶剤(RACコードI:4A)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
・ 施設内外の雑草は増殖源となるので除草する。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(ほ場率：平年比28%、株率：平年比17%)。(―～±)
・ 向こう1か月の気温は高く、日照時間は平年並か少ない見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 気門封鎖剤を活用するとともに、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布し、抵抗性の発達を抑制する。
・ 親株での発生を防ぐため、管理作業は本ば作業の前、もしくは別に行う。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(ほ場率：平年比105%、株率：平年比244%)。(±～+)
・ 向こう1か月の気温は高く、日照時間は平年並か少ない見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 観察した花の1割以上にアザミウマ類の寄生が見られる場合は、速やかにスピノエース顆粒水和剤(I:5)等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①、②](#)を当センターHPに掲載中。

5 トマト 黄化葉巻病(TYLCV、タバココナジラミが媒介)

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い(ほ場率：平年比345%、株率：平年比600%)。(+)
・ 向こう1か月の気温は高く、日照時間は平年並か少ない見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の誘殺が見られた際にトランスフォームフロアブル(I:4C)等を散布する。
・ 発病株は耐病性品種であっても伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。
・ タバココナジラミは黄化葉巻病(TYLCV)だけでなく黄化病(ToCV)も媒介するため、適切な防除を行う。

6 きゅうり べと病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(ほ場率：平年比213%、株率：平年比345%)。(±～+)
・ 向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か少ない見込み。(―

- ～±)
- (3) 対策
- ・多湿条件で多発するので、適正なかん水と換気を行う。
 - ・草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。
 - ・予防を主体に銅剤やダコニール 1000 (F:M5) 等を散布する。発病が見られるほ場ではリドミルゴールド MZ (F:M3, F:4) 等を散布する。
- (4) 備考
- ・[キュウリべと病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

7 たまねぎ べと病

- (1) 発生予想
- 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量は平年並（ほ場率：平年比 77%、株率：平年比 91%）。（±）
 - ・向こう 1 か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か少ない見込み。（－～±）
- (3) 対策
- ・雨水が滞留すると発生しやすくなるので、ほ場の排水をよくする。
 - ・予防を主体にプロポーズ顆粒水和剤（F:40, F:M5）を散布する。発生が見られる場合は、シグナム WDG (F: 7, F:11) 等を散布する。
 - ・曇雨天が続くと予想される場合には、降雨前に薬剤を散布する。
- (4) 備考
- ・気温 15℃前後で雨が多いと発生が多くなりやすい。
 - ・[植物防疫ニュース No. 13（タマネギべと病）](#)を当センターHP に掲載中。

8 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
いちご	灰色かび病	多	やや多	きゅうり	うどんこ病	やや多	多
	うどんこ病	やや少	平年並		褐斑病	多	多
トマト	葉かび病	平年並	平年並	たまねぎ	コナジラミ類	多	多
	うどんこ病	やや少	平年並		アザミウマ類	多	多
	灰色かび病	やや少	やや少				

○ 水稻の移植時期における病害虫対策

箱施用剤を使用し、いもち病や紋枯病等の病害やウンカ類、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ等の害虫の発生を抑制しましょう。特に常発地、多発地では、積極的に使用しましょう。

○ いちご親株の管理

本ぼと親株の管理作業を分け、本ぼからの病害虫の持ち込みを避けましょう。

○ なし 黒星病

果そう基部病斑（芽基部病斑）の摘み取りを徹底し、DMI 剤を散布しましょう。昨年多発したほ場では、芽基部病斑が多くなる可能性があるので、特に注意が必要です。また、開花期から展葉初期に降雨が多く、開花から 2 週間以内に黒星病の発生が散見される場合は、多発の危険があるので注意しましょう。

[ナシ黒星病菌の簡易薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中です。

○ かんしょ サツマイモ基腐病

本病は栃木県内での発生は確認されていませんが、令和 6（2024）年 4 月現在、全国 34 都道県で発生が確認されています。発病すると、地上部の変色及び枯死、イモの腐敗等の症状が現れます。

健全な種苗を導入するとともに、発病株が発生した場合は早期発見により被害の拡大を未然に防止することが重要です。

[サツマイモ基腐病に注意！](#)を当センターHP に掲載中です。

農薬は適正に使用しましょう

- 農薬を適正に管理し、容器のラベルをよく読み、農薬による事故等の発生を防止しましょう。
- RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。
- 4 月～6 月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。

1 か月気象予報（予報期間 4 月 20 日から 5 月 19 日 4 月 18 日気象庁発表）

暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項 目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	1 0 %	1 0 %	8 0 %
降 水 量	3 0 %	3 0 %	4 0 %
日照時間	4 0 %	4 0 %	2 0 %

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせは X（旧ツイッター）「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業総合研究センター ホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g596/index.html>) でもご覧になれます。

令和6(2024)年度 病害虫発生予報 第2号

令和6(2024)年5月17日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

平年より高温多雨が予想されるため、病害虫の増加に注意しましょう！

予想期間 5月下旬～6月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(－)は減少要因を表す。

1 水稲 縞葉枯病(ヒメトビウンカ媒介)

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 昨年10月の再生稲調査での本病の発生は平年並(ほ場率：64%、株率：4%)。(±)
・ 昨年11月のウンカ類の越冬前幼虫の発生量はやや少なかった。(－)
・ 向こう1か月の平均気温は高い見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ 昨年発生が多かった地域では、本田期防除を実施する。
- (4) 備 考 ・ [令和5\(2023\)年度植物防疫ニュース No. 10](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 麦類 赤かび病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い(ほ場率：平年比1040%)。(＋)
・ 向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±～＋)
- (3) 対 策 ・ 開花・出穂期での発生がない場合でも、不稔粒発生や曇雨天などによって登熟期後半に多発することがある。今年は県全域において既に赤かび病の発生が確認されているので、ほ場をよく確認し、収穫前日数に注意して追加防除を行う。
- (4) 備 考 ・ [令和6\(2024\)年度植物防疫ニュース No. 1](#)、[No. 2](#)、[令和6\(2024\)年度病害虫発生予察注意報第2号](#)を当センターHPに掲載中。

3 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(ほ場率：平年比100%、株率：平年比159%)。(±～＋)
・ 向こう1か月の降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 多湿条件において発生しやすいので、施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
・ 発病した葉、果実、花卉等は伝染源となるため、速やかに取り除き施設外で処分する。
・ 発生状況に応じてセイビアーフロアブル20(F:12)等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [灰色かび病薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

4 きゅうり ベと病

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(ほ場率：平年比105%、株率：平年比153%)。(±)
・ 向こう1か月の降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 多湿条件で多発するので、適正なかん水と喚気を行う。
・ 草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。
・ 予防を主体にジャストフィットフロアブル(F:43、40)等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [キュウリベと病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 果樹 カメムシ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在のフェロモントラップへの誘殺数は多い。(＋)
・ 向こう1か月の気温は高い見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ 夜間の気温及び湿度が高いと予想される日には、日没以降にカメムシ類が多く飛来するおそれがあるため注意する。
・ 4mm目合い以下の多目的防災網で園全体を被覆し、被害を防止する。
- (4) 備 考 ・ 山林に隣接したほ場や、過去に被害が大きかったほ場では特に注意する。
[令和6\(2024\)年度病害虫発生予察注意報第1号](#)を当センターHPに掲載中。

6 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(ほ場率：平年比98%、株率：平年比270%)。(＋)
・ 向こう1か月の気温は高く、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±～＋)

- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
 ・ 化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備 考 ・ [園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
トマト	葉かび病	平年並	平年並	きゅうり	コナジラミ類	平年並	やや多
	うどんこ病	平年並	平年並	なし	黒星病	平年並	平年並
	コナジラミ類	やや多	多		アブラムシ類	平年並	やや多
きゅうり	うどんこ病	平年並	平年並				

○施設栽培の病害虫

- ・ トマト、きゅうり、いちご等の施設栽培では、**栽培終了時にハウスの密閉蒸し込みを行うなど、施設内の害虫を野外へ「出さない」対策を徹底しましょう。**特に、コナジラミ類はトマト黄化葉巻病(TYLCV：タバココナジラミ)やトマト黄化病(ToCV：タバココナジラミ、オンシツコナジラミ)を媒介し、ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病(MYSV)を媒介するため、注意が必要です。
- ・ いちごは親株と本ぼの管理作業が重なる時期です。本ぼで薬剤抵抗性を発達させたハダニ類を親株に持ち込まないために、本ぼ作業後に親株の管理作業を行わないようにしましょう。

○定植前後の防除の徹底

- ・ なす・ねぎ・にら等の野菜類では、定植前後の病害虫防除が重要です。育苗・定植時の粒剤・かん注剤の使用や、定植後の適切な薬剤散布により被害防止に努めましょう。

○うめ・もも・すもも等 クビアカツヤカミキリ(特定外来生物)

- ・ 暖かくなると幼虫の動きが活発になるため、フラス(木くず)の排出が盛んになります。県内での発生地域は拡大傾向にあるので、これまで発生が確認されていない園地においても見回りを行いましょう。発見時には農業総合研究センターまで御連絡ください。

[令和5\(2023\)年度植物防疫ニュース No. 2](#)を当センターHP に掲載中。

○かんしょ サツマイモ基腐病

- ・ 本病は栃木県内での発生は確認されていませんが、令和6(2024)年5月現在、全国34都道県で発生が確認されています。発病すると、地上部の変色及び枯死、イモの腐敗等の症状が現れます。健全な種苗を導入するとともに、発病株が発生した場合は早期発見により被害の拡大を未然に防止することが重要です。[サツマイモ基腐病に注意!](#)を当センターHP に掲載中です。

農薬は適正に使用しましょう

- 6月～8月は「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。
- 農薬を適正に管理し、容器のラベルをよく読み、農薬による事故等の発生を防止しましょう。
- RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。
- 4月～6月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。

1か月気象予報(予報期間5月18日から6月17日 5月16日気象庁発表)

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

項 目	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	10%	20%	70%
降 水 量	30%	30%	40%
日照時間	40%	30%	30%

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課(Tel 028-665-1244)までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはX(旧ツイッター)「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホームページ(<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>)でもご覧になれます。

令和6(2024)年度 病害虫発生予報 第3号

令和6(2024)年6月21日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

高温性の病害虫の発生増加に注意しましょう。

予想期間 6月下旬～7月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 水稲 いもち病

- (1) 発生予想 ・ 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 向こう1か月の気温は高く (-)、降水量は平年並 (±)。
・ BLASTAM(6月中旬)では、一部の地点で感染好適条件が連続して確認された(+)。
- (3) 対 策 ・ 葉いもちの初発時期(6月中下旬)以降、ほ場をよく見回り、早期発見に努める。
・ 発生が見られる場合は、ダブルカットフロアブル(RACコードF:16.1、24)等、予防・治療効果のある薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・ BLASTAM(いもち病発生時期予測システム)の情報、薬剤感受性検定結果を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 水稲 縞葉枯病(ヒメトビウンカ媒介)

- (1) 発生予想 ・ 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 向こう1か月の気温は高く (+)、降水量は平年並 (±)。
・ 6月第2半旬までの黄色粘着板への成虫の誘殺数は平年並 (±)。
・ 大麦におけるヒメトビウンカの密度はやや少ない(平年比42.6%)(-～±)。
・ 大麦におけるヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルスの県平均保毒虫率(5月中旬)はやや低い(平年比39.4%)(-～±)。
- (3) 対 策 ・ 昨年発病の多かった地域では、本田期防除を実施する。
- (4) 備 考 ・ 県内の保毒虫率は低下傾向であるが、コシヒカリなど縞葉枯病に抵抗性を持たない品種を作付けした常発地域では、被害の発生に注意する。
・ 令和6(2024)年度植物防疫ニュースNo.4を当センターHPに掲載中。

3 いちご(親株・育苗) 炭疽病

- (1) 発生予想 ・ 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(ほ場率：平年比129%、株率：平年比400%)(+)。
向こう1か月の気温は高く (+)、降水量は平年並 (±)。
- (3) 対 策 ・ ほ場をよく見回り、発病株や感染が疑われる株は早急に取り除き、ほ場外で適切に処分する。
・ 水滴の飛散等で伝染するので、できるだけ水の跳ね返りのないかん水を行う。
・ 発病してから防除は困難なので、ベルコートフロアブル(F:M7)等を定期的に散布するなど、予防を主体とした対策を行う。
- (4) 備 考 ・ 病害虫防除対策のポイントNo.21、薬剤感受性検定結果を当センターHPに掲載中。

4 トマト コナジラミ類(黄化葉巻病(TYLCV))

- (1) 発生予想 ・ 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い(ほ場率：平年比323%、葉率：平年比220%)(+)。
向こう1か月の気温は高く (+)、降水量は平年並 (±)。
- (3) 対 策 ・ ウイルスを媒介するコナジラミ類の侵入を防ぐため、ハウスの開口部(出入り口、側窓、天窗)に0.4mm目合以下の防虫ネットを展張し、特に出入り口は二重にする。
・ 黄色粘着板の設置により、コナジラミ類の早期発見に努める。発生が見られた場合アニキ乳剤(I:6)等を散布する。
・ 黄化葉巻病の発病株は耐病性品種であっても伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
・ 黄化葉巻病の耐病性品種であっても、本病に感染すると伝染源となるため、感受性品種と同様に適正な防除を行う。
- (4) 備 考 ・ 病害虫防除対策のポイントNo.22、薬剤感受性検定結果を当センターHPに掲載中。
タバココナジラミは黄化葉巻病(TYLCV)だけでなく黄化病(ToCV)も媒介するため、適切な防除を行う。

5 野菜類・花き類 オオタバコガ

- (1) 発生予想 ・ 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ フェロモントラップへの越冬世代成虫の誘殺数は多い（＋）。
・ 現在の発生量はなすで多い（＋）。
・ 向こう1か月の気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）。
- (3) 対 策 ・ 新しい食害痕や虫フンを目印に早期発見に努める。
・ 施設は開口部に5mm目合以下の防虫ネットを展張し、侵入を防止する。
・ 幼虫は果実や花らい、結球部に食入するため、こまめには場を見回り、食害痕や虫フンを発見したら、プレバソンフロアブル5（I:28）（トマト・なす・キャベツ等）やアニキ乳剤（I:6）（いちご、トマト、なす、きく等）等で速やかに防除する。
- (4) 備 考 ・ 摘除した果実や脇芽に幼虫が寄生していることがあるので、ほ場内に放置せず、適切に処分する。
・ 発生ほ場では、土中に残る蛹を殺すため、栽培終了後に十分耕耘する。
・ 令和6（2024）年度植物防疫ニュースNo.5を当センターHPに掲載中。

6 りんご 斑点落葉病

- (1) 発生予想 ・ 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い（＋）。
・ 向こう1か月の気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）。
- (3) 対 策 ・ 定期的に予防散布を行い、発生が確認されたらナリアWDG（F:11, F:7）等を散布する。

7 果樹類 果樹カメムシ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 6月第3半旬までのチャバネアオカメムシ越冬世代成虫の誘殺数は多い（＋）。
・ 本年のスギ・ヒノキ花粉量は昨年比で少ないため、餌となる球果がカメムシの発生量に対して少なく、果樹園への飛来が増える可能性がある（＋）。
・ 向こう1か月の気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）。
- (3) 対 策 ・ 夜間の気温及び湿度が高いと予想される日には、日没以降にカメムシ類が多く飛来するおそれがあるため注意する。
・ 4mm目合以下の多目的防災網で園全体を被覆し、被害を防止する。
- (4) 備 考 ・ 山林に隣接したほ場や、過去に被害が大きかったほ場では特に注意する。
・ 令和6（2024）年度病害虫発生予察注意報第1号を当センターHPに掲載中。

8 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
いちご	ハダニ類	平年並	やや多	なし	黒星病	やや少	やや少
	うどんこ病	やや少	やや少		シンクイムシ類	多	多
トマト	葉かび病	平年並	平年並		ハダニ類	平年並	やや多
野菜類	アブラムシ類	やや少	平年並	きく	ハダニ類	やや少	平年並
	ハスモンヨトウ	平年並	やや多				

○施設栽培の病害虫

- ・ トマト、きゅうり、いちご等の施設栽培では、栽培終了時にハウスの密閉蒸し込みを行うなど、施設内の害虫を野外へ「出さない」対策を徹底しましょう。特に、コナジラミ類はトマト黄化葉巻病（TYLCV：タバココナジラミ）やトマト黄化病（ToCV：タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）を媒介し、ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病（MYSV）を媒介するため、注意が必要です。

○うめ・もも・すもも等 クビアカツヤカミキリ（特定外来生物）

- ・ クビアカツヤカミキリが樹木に寄生すると、幹や枝から、レンガ色でうどん状のフラス（幼虫が排出する、木くずと糞が混じったもの）が大量に排出されます。うめ、もも、すもも等の樹木からフラスが出ているのを見つけたら、農業総合研究センター防除課まで御連絡ください。
- ・ 令和6（2024）年度植物防疫ニュース No. 3を当センターHPに掲載中です。

○かんしょ サツマイモ基腐病

- ・ 本病は栃木県内での発生は確認されていませんが、令和6（2024）年6月現在、全国35都道県で発生が確認されています。発病すると、地上部の変色及び枯死、イモの腐敗等の症状が現れます。
- ・ 健全な種苗の導入及び発病株の早期発見により被害の拡大を未然に防止することが重要です。
- ・ サツマイモ基腐病に注意！を当センターHPに掲載中です。

農薬は適正に使用しましょう

- 4月～6月は「春の農作業安全確認運動」、6月～8月は「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。
- 農薬を適正に管理し、容器のラベルをよく読み、農薬による事故等の発生を防止しましょう。
- 化学農薬の抵抗性の発達を防ぐため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

1か月気象予報（予報期間6月22日から7月21日 6月20日気象庁発表）

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項 目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	1 0	1 0	8 0
降 水 量	3 0	4 0	3 0
日照時間	4 0	3 0	3 0

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（Tel 028-665-1244）までお問合せください。

病虫害情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>) でもご覧になれます。